

令和5年度 東はりま特別支援学校 学校評価結果

設問	重点	項目	担当校務部	評価項目	職員評価		保護者評価		成果と課題	外部関係者評価
			関連する取組		昨年度	今年度	昨年度	今年度		
1	教育課程 授業改善 生きる力 主体的・対話的深い学 び		(教務部) 各教科等の年間計画作成 学習指導要領に基づく授業計画	児童生徒の発達段階をふまえ、小中高の縦のつ ながり、連携を考えた授業の充実を図っている。	3.0	3.2 <sup>+</sup>	3.4	3.5 <sup>+</sup>	年間指導計画の様式変更、内容項目冊子の作成 により、指導内容を意識して授業計画を立て、授 業を行うことができた。12年間を見通した内容項 目のチェックリストの作成、活用については、今年 度同様、教科部会、研修会等の充実により、学部 をこえた意見交換を引き続き行っていく。(教務)	【評価できる点】 ・全体的に評価が上がっている。 ・職員より保護者のほうが評価が高いの で、学校を信頼して子どもを預けている保 護者が多い。実際周りの保護者はほとん どが一定以上の信頼を寄せているように 感じる。 ・職員も保護者も昨年度と比較し評価が アップしているため、次年度も今年度と同 様に取組を続けていただけたらと思いま す。 ・授業改善に向けた取組を、学部・学年を 超えて全校的に行われている。今後の更 なる改善に向けて、方向性も見出されて いる。 ・コロナが5類になったとはいえ、まだまだ 行事や活動について難しいがある中で、 それぞれの学部や学年、クラスで工夫し た取組が伺えます。子どもたちにとって記 憶に残る活動が出来ていると評価しま す。 ・防災教育や避難訓練は“生きる力を育 む”とても重要な視点です。とても丁寧に 実施をされており、地震避難訓練も障 害特性に合わせた支援の中で積極的に 取り組まれているなど評価ができます。 ・進路指導や相談、連携は学業以外の分 野であるが、それぞれがどれも重要な意 味を持っている。そういった細部にわたる 細かい支援ができています。評価できま す。 ・家庭との連携については県下でもライ アングルプロジェクトとしてそこに、福祉も 踏まえて推奨されています。東はりまはト ライアングルに状況もはっきり連携出来て おり安心して教育と福祉が繋がっていると 評価できます。 ・スポーツフェスタや東はりまフェスタを通 じて生徒ひとりひとりに合わせた目的を持 たせて、やりがいや達成感を得ることが出 来る指導をしている。
2			(教務部) 教育活動全般	確かな学力と豊かな心を育むと共に、生きる力を 身につける指導に取り組んでいる。	3.2	3.3 <sup>+</sup>	3.3	3.4 <sup>+</sup>	年間指導計画、個別の指導計画をふまえ、工夫 をこらした授業づくり、授業展開が行われている。 一方授業者が児童生徒全員の個別の目標を把 握することが難しいため、より児童生徒全員の目 標を把握しやすくできる工夫が必要。(教務)	
3			(研究研修部) 授業研究 講師招聘による研修会	児童生徒の実態を把握しつつ、主体的・対話的で 深い学びを意識した授業改善に取り組んでいる。	3.1	3.2 <sup>+</sup>			年度始めに、12年間を見据えた指導計画を作成 する意義や3つの観点を踏まえた指導、評価につ いて本校の教員を講師として研修を行った。ま た、1学期に学部ごとに教科や学習内容ごとのグ ループに分かれてそれぞれの授業内容を紹介し あう機会を設け、2学期には学部を超えて授業を 紹介しあう機会を設けた。研修用の予算が昨年 度から半分以上減額されているため、学校外の 講師の招聘は減らさざるを得なかった。(研修)	
4	体験活動	(各学部) 校外学習 地域清掃 フェスタ 宿泊学習 自然体験学習	校外外での体験活動を通して、社会生活を送るう えで必要なスキル(挨拶や交通ルール、公共のマ ナー)を育てている。	3.3	3.5 <sup>+</sup>	3.5	3.6 <sup>+</sup>	毎年、生徒の実態に応じて内容や行先の検討を行っ ている。事前・事後学習を行っている。地域清掃はゴミ分 別の都合上、廃止した。(高) 総合的な学習の時間において公共施設や交通機関の 正しい利用方法やマナーを学び体験学習や泊を伴う学 習において実践している。(中) 学年ごとに児童の実態を踏まえて、体験学習実施前に 事前学習を設定し、施設の利用方法やマナーについて 学習している。(小)		
5		(総務部・各学部) 学校行事 学部・学年行事 学級活動	児童生徒の実態を踏まえ、行事の精選や内容を 検討し、活動の充実にも努めている。	3.3	3.5 <sup>+</sup>			フェスタや芸術鑑賞会等は、コロナ禍や児童生徒 数の増加に伴い、昨年度より学部別に開催してい るが、それぞれ児童生徒の実態を踏まえて工夫し て行うことができています。(総務) 児童の実態を踏まえ、学年ごとに体験学習の目 的・行先・内容を検討するだけでなく、学部会で他 学年との情報共有をすることを通して、系統性を 意識することができた。(小)		
6	教員の専門性	(研究研修部・支援部) 研究授業 初任者校内研修 校内教員による研修会 教材展 スクールカウンセラーによる研修会	授業研究や専門家に学ぶ機会を設け、特別支援 教育の専門性向上に努めている。	3.3	3.4 <sup>+</sup>			初任者に対する研修を年間計画に基づいて随時行っ ている。また、初任者研修や3年次研修の研究授業を教 務部主催で行い、小学部独自の研究授業も行った。毎 年夏季休業中には、本校職員が作成またはおすす めの教材を紹介する教材展や、希望者対象のさまざま ワークショップを開催している。今年度は教科独自の研 習や放デイの専門家の講座もあり、教員の専門性の向 上に努めた。(研修) スクールカウンセラーを講師とした研修会ではアセ メント全般、TEACH、ABA、認知行動療法、感情の理解 とコントロール、ストレスマネジメント等、日頃児童生徒 と関わる上で大切な理論等を学び、カウンセリングマ インドに基づき児童生徒の話を傾聴する技術や褒め方を グループで実践的に学ぶことができた。(支援部)		
7		(情報部) 情報研修 ICT(タブレット端末・電子黒板)活用授 業	ICTに関する研修により、知識や活用の幅を広げ ると共に、情報モラルについても指導している。	3.1	3.1	3.2	3.5 <sup>+</sup>	ニーズに合わせて、情報機器の使いなどの研 修を行った。授業でICT機器を活用する教員が増 えており、視覚支援以外にも電子黒板としての活 用が広がってきている。児童生徒がICT機器を活 用して展開できる授業内容を研究する必要がある が、操作できる児童生徒は一部であり、全員に導 入するには課題が多い。使用できるソフト(アプリ ケーション)にも限りがあるなどの課題も見られ る。情報モラルは、生徒指導部とも協力して取り 組んでいる。		
8	いのちと人権を大切に する学校づくり	(総務部) 教育活動全般 道徳	生命や自分を大切にすること、他人を思いやる心 を育てる視点を意識し、教育活動に取り組んでいる。	3.2	3.3 <sup>+</sup>	3.3	3.4 <sup>+</sup>	本年度も人権教育研修会や教科部会で教師の人 権意識を高めた。また、道徳教育全体計画に基 づき、各学部学年で年間指導計画を作成して、教 育活動に取り組んだ。日常生活の指導を通して、 命の尊さや自他を大切にすること、思いやりや助け 合いの気持ちを育てることができた。		
9		(保健部) 食育 保護者との連携、給食指導	健やかな体づくりに向けて、栄養教諭・保護者と連 携し学校教育全般を通して食育に取り組んでいる。	3.5	3.4 <sup>+</sup>	3.6	3.7 <sup>+</sup>	食に関する全体計画②の定着に合わせ、年間を 通じた食育が各学部とも活性化されている。保護 者を対象に、年に1回、食育に関するアンケートを 実施し、家庭の意識等を具体的に知ることができ 、次年度の学校での取組、家庭へのアプローチ 方法にもつなぐことができる。障害特性から見 られる食嗜好については、給食指導を通じ家庭と も細かな連携をし、改善傾向が見られるケー スが多い。基本の食事知識、マナー、安全、清潔へ の理解も定着している。		
10		(管理図書部) 状況(火災・地震・津波)を想定した訓 練 不審者対応訓練(警察署員招聘) 引き渡し訓練	児童生徒引き渡し訓練実施等、災害対応に取 組んでいる。また、他の防災マニュアルについても随 時見直し、危機管理体制の充実を図っている。	3.3	3.5 <sup>+</sup>	3.6	3.7 <sup>+</sup>	火災避難訓練は雨天時の避難を考えるきっかけ になったが、梅雨時期を避ける等日程調整の必 要がある。引き渡し訓練は、今回初めて児童生徒 の引き渡しを実際に保護者に行うことができた。 参加後に保護者と引き渡しの流れを確認するこ とができた。不審者対応訓練では中庭で訓練の様 子が見られたこと、伝達の仕方を考えるきっかけ になったことなどが成果であった。地震避難訓練 では、視覚支援や説明により見通しが持ちやす くなるよう工夫し、児童生徒が落ち着いて参加でき ていた。		
11	(生徒指導部) いじめ防止基本方針	いじめ防止基本方針に基づき、人権意識を高く持 ち、児童生徒の望ましい人間関係の育成に努めて いる。	3.3	3.4 <sup>+</sup>	3.5	3.6 <sup>+</sup>	5月にいじめ事案が発生したため、いじめ対策委 員会を開き、方針を決定することで、学校全体で 取り組み、早期解決に向かうことができた。また、 いじめの早期発見を目的に、生活アンケートを年 2回(6月、11月)実施した。気になる回答があっ た場合は、担任が面談を行い、いじめの有無を確 認した。結果、いじめの疑いや認知は無かった。 教員は、日頃から児童生徒の小さな変化を敏感 に察知し、いじめを見逃さず、早期発見に努めて いる。			
12	個人情報保護	(情報部) 個人情報の管理 USB等によるデータ管理の遵守 取り扱いファイル規定に基づく情報管 理	個人情報保護の観点に基づき、児童生徒や保護 者に関する情報など、情報の管理を適切にしてい る。	3.4	3.6 <sup>+</sup>	3.6	3.6	「情報資産の分類とその管理」についての研修を 行い、管理に関する認識を徹底している。個人情 報を含む内容は、原則USBや外付けハードディス クなどの記憶媒体に保存しないことを伝えている。 写真等個人情報保護のため、各教室にデジタル カメラを配置し、それで児童生徒の写真を撮る こととした。		
13		(支援部) 個別の教育支援計画の作成 目標の共有・連携・実態把握 合理的配慮の合意形成	本人・保護者の願いに基づき、合理的配慮の合意 形成を踏まえた目標を設定し、達成に向けて取り 組んでいる。	3.3	3.5 <sup>+</sup>	3.7	3.7	年度始めから終わりまで新様式を使用した初の 年度であった。願いの聞き取りや昨年度から今年 度への引継ぎ等について懇談で話し合うことで、 大きな混乱なく活用することができた。(支援部)		
14	(教務部) 年間指導計画 個別の指導計画(新様式検討) 明確な評価と見直し	「年間指導計画」に沿って、合理的配慮を踏まえた 「個別の指導計画」の作成と見直しを行っている。	3.3	3.5 <sup>+</sup>	3.7	3.7	新様式の導入により、合わせている教科の内容、 3観点によるねらいや評価が明確になりつつあ る。内容項目、指導内容については、今後も情報 提供、話し合いが必要である。(教務)			

15	交流及び共同学習	(各学部・教務部) 副籍校の確認(小中)、居住地校交流(小中) 播磨中学校、播磨南中学校との学校間交流(中2) 播磨南高等学校との学校間交流(高:ALT、美術部、生徒会:オンライン交流) 考古博物館見学と組み紐体験(高1) 東はりま作品展(高2)	児童生徒の教育的ニーズを十分把握し、双方の児童生徒にとって効果的な活動を設定している。		3.3			居住地校交流、学校間交流は交流の意義を明確にし、実施できた。播磨南高校との交流については、両校の現状を理解し合い、今後の方向性についての話し合いが必要である。(教務) 生徒会を中心に、できる範囲で播磨南高校との交流を行っている。あえの里との交流は、コロナ禍がおさまったため今年から再開した。清掃だけでなく入所のお年寄りとの交流もできた(高) 保護者のニーズに応じて計画的に居住地校交流を行っている。中学部2年生は、播磨中学校、播磨南中学校と学校間交流を通じて互いの理解を深めることができた。(中) 保護者のニーズと相手校の事情を調整しながら居住地校交流を行っている。学校間交流では、4年ぶりに播磨小学校の2年生、4年生と直接交流を行うことができた。(小)
16	キャリア教育	(進路指導部) キャリア教育発達段階表	個々の課題解決に向けてキャリア教育発達段階表を意識した授業を実践している。	3.1	3.2	3.4	3.5	各学部学年で発達段階を意識した授業実践ができていた。今年度は各学部学年でキャリア教育に関する授業や行事の様子を学校ホームページで知らせる取り組みを行った。次年度は現在使っているキャリア教育表に加えて、各学部段階で社会自立や社会参加に必要な力や取組を整理し、高等部卒業後の「はたらく人」像が見通せる取組につなげたい。
17	信頼に 応える 学校 づくり	(進路指導部) 保護者向け進路研修会、見学会 進路懇談会(高)	福祉や労働などの関係機関やPTAと連携し、本人・保護者の願いに寄り添った継続的な進路指導に取り組んでいる。	3.4	3.4	3.3	3.6	保護者向けの進路研修会は、兵庫県手をつなぐ育成会主催の「障害者基礎年金について」の学習会を開催し、小学部から高等部までの保護者約70名に参加いただいた。 中学部・高等部生徒保護者中心に障害福祉事業所の事業所説明会・見学会/体験会を多数お知らせした。また全校的には関係機関からの余暇につながる催し物の案内を複数回紹介するなど本人・保護者の願いに寄り添った取組ができた。 保護者より見学会等のお知らせの時期を早くしてほしいという意見をいただいた。今後はプリント配布を1か月半前をめどにできるだけ早くお知らせするようにしたい。
18		(進路指導部) 進路説明会 保護者懇談・相談	進路説明会等を実施し、早期より保護者に卒業後の生活に向けて情報提供ならびに意識啓発を行っている。	3.3	3.4	3.2	3.4	必要な時期に進路説明会を実施し、高等部卒業を見据えた進路指導ができた。相談については個別懇談や連絡帳での質問や疑問にその都度担任・進路専任が対応しているが、今回「気軽に相談できるきっかけがない」というご意見をいただいた。対策として進路説明会後に個別に相談できる時間を設ける、行事で保護者が来校したときに相談ができる時間を設けるなど考えたい。
19	連携 (職員)	(各学部) クラス・学年・学部・学部長会・各種委員会による情報共有	児童生徒の個々の課題に対して、担任団・学年団・学部等で各会議をもち、情報共有を図っている。	3.4	3.6			学部内では生徒情報については個人情報保護の観点から共有しにくいものもあるが、臨時的な学年会議を持つなど、学年内の情報共有はできている。(高) クラス会、学年会、学部会や日々のコミュニケーションを通して、情報共有を行い、連携を密にしながら、指導、支援にあたることができた。(中・小)
20	センター的機能	(支援部・総務部) 公開研修会 オープンスクール 高校Coとのネットワーク会議 地域特別支援担当者会への出席 教育相談(就学前、小中高校への案内配布)	教育相談や研修会、各種連絡会により、他機関や地域の施設・学校との連携を深め、センター的機能としての役割を推進している。	3.3	3.4			オープンスクールを通して、福祉関係や地域の学校の先生方に児童生徒の様子を見ていただくことができた。(総務) 公開研修会は神出学園の先生に「発達障害のある不登校児童生徒への対応」についてご講話いただいた。対面とリモート形式のハイブリッドで実施することで、地域の先生方にも参加していただき、不登校のある児童生徒やご家族への対応や、神出学園について知る機会を提供することができた。教育相談の案内を就学前から高校までの学校園に配布することで高校からも研修会の依頼をいただくことができた。(支援部)
21	情報発信	(総務部・情報部・各学部) 学校新聞 学部・学年だより PTA新聞 学校ホームページ・ブログ オープンスクールの実施	学校ホームページや紙面などの方法で効果的な情報発信を行い、地域や保護者に対して、本校教育への理解啓発を進めている。	3.4	3.5	3.4	3.5	高等部では写真販売や配布をしないため、学年だよりを定期的に発行し、保護者に写真で学校活動の様子を伝えている。また、学校の様子はブログで伝えるようにしている。(高) 学校新聞を月1回、PTA新聞を年2回発行。保護者に学校の様子を伝えることができた。個人情報との関連で新聞に使用する写真の扱いが難しい。オープンスクールを実施し、地域など外部の方々にも学校の活動を見ていただくことができた。(総務) 定期的に学年通信を発行し、日々の学習の様子や予定について伝えている。(中・小)
22	働きがいのある 職場づくり	(管理職) 定時退勤日の推進 業務改善 サービス支援システム	勤務時間の適正化に向け、業務改善や意識改革に取り組んでいる。	3.0	3.2			今年度も毎週水曜日を定時退勤日とし、掲示板で退勤時間を意識していただくよう周知し、啓発に努めた。また、設定されている会議については議題・内容を整理し必要最小限での会議設定を促したことにより、会議の回数、会議時間の短縮につながっている。
23	連携 (外部機関)	(支援部) 外部機関や専門家との連携 拡大支援会議 主治医訪問	児童生徒の個々の課題について、家庭・外部機関と協力・調整を図り、情報を共有して課題解決に取り組んでいる。	3.3	3.4	3.2	3.3	関係機関で役割分担をすることで、情報共有や連携がスムーズになり、本人のニーズをうまく聞き取って対応できるようになった。例えば登校に困難がある児童生徒が登校できるようになるなどした。課題としては関係機関ごとに会議等に参加しやすい時間帯が異なっており、日程調整が難しい。(支援部)
24	開かれ つながる 学校 づくり	(総務・教務・支援部) 家庭訪問・個人懇談会 授業参観 教育支援計画・指導計画の手立ての 合意形成	児童生徒の個々の課題について、懇談会等を通して保護者と確認共有し、課題解決に取り組んでいる。	3.4	3.6	3.4	3.5	家庭訪問、懇談会については、総務部、教務部で日程調整を行っている。記録用紙の内容を、教務部、支援部、進路指導部で検討を行い、わかりやすく、情報共有しやすい形式に変更できている。(教務) 児童生徒の学習活動を見ていただく機会を増やすため、参観日の設定日を調整している。(総務) 個別的教育支援計画についてはあらかじめ支援案を作成した上で懇談で保護者と相談しながら合意形成できるようにしている。(支援部)
25	地域との交流	(各学部) あえの里、清掃と交流(高1) 地域のシニアクラブとの交流(高1) 考古博物館屋外清掃(高)	校区の方々との交流、地域貢献活動に取り組んでいる。		3.3			交流及び共同学習の取組と重複する活動があるが、各学年で計画的に取り組んでいる。交流係を置き、各交流先との打ち合わせを行い交流が途絶えないようにしている。(高) ゴミの分別方法が変更になる前は、地域清掃を計画的に行っていたが、変更後は分別作業等の関係から実践できていない。(中)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度も昨年度同様に、Formsでのアンケートを基本とし、保護者にはそれぞれの利便性に合わせプリントとの選択でアンケートを実施した。職員の回答率は100%、保護者からの回答率は70%(昨年度は95パーセント)であった。保護者に対しては回答の督促をかけにくいことが回答率の低下につながっているのではないかと考えられる。</li> <li>今年度は5月より新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行したことを受け、学校行事については特に制限を設けることなく保護者に来校していただくことができた。これまで直接学校生活を見る機会が少なく不安に思われていた部分を解消することができたことが評価に反映されているように見受けられる。</li> <li>保護者記述欄の中には、「学校・家庭・福祉・医療との連携において十分でないと感じる」や、「ICT機器をどのように学校で使用しているのかを知る機会がない」といったご意見があった。どちらも学校としては積極的に取り組んでいるが、保護者への発信が十分でないことがわかった。今後も学校ホームページ、学校新聞、学部学年の通信を通じて広報していくことを職員間で再確認した。</li> <li>今年度のアンケートでは職員も保護者も多くの項目で評価がよくあったが、来年度も児童生徒の増加による校舎の狭小化、増築工事に伴うグラウンドの使用制限などが予想される中、児童生徒の安全に配慮しながら教育環境を整備し、教育活動を行っていきたく考えている。</li> <li>職員の記述欄には、他学部との交流や情報交換の場が少ない、というものがあつたが、今年度は学部実践交流会を設定し2年間を見通した指導についても教務部で資料を作成し、それを活用した。</li> <li>地域との交流は高等部の取組が中心になっているが、小学部、中学部では地域貢献に向けてどのようなことに取り組む、そして高等部へとつなげていくのかを考え、小学部から積み重ねをしていきたい。</li> </ul>							